

press release

2012年7月17日

Seeing is Believing 募金活動 目標額 1 億米ドルの半分を達成

スタンダードチャータード銀行(本店:ロンドン、CEO:ピーター・サンズ/在日支店:東京都千代田区、CEO:クリストファー・R・ナイト)は、回避可能な視覚障害撲滅を目指すグローバルプログラム、Seeing is Believing に取り組んでいます。そのために、発展途上国の貧困地域にアイケアサービスを提供するべく 1 億米ドルを集める目標を掲げており、このたびその中間点に到達しましたのでここにご報告いたします。2003 年の開始以来、Seeing is Believing の活動に 5,000 万米ドル以上の募金が寄せられており、スタンダードチャータードが事業を展開するアジア・アフリカ・中東地域で支援を必要とするコミュニティにおける、回避可能な視覚障害の撲滅支援に充てられています。

スタンダードチャータードは、ブランドプロミスである Here for good を促進する中で、2011 年 9 月開催のクリントン・グローバル・イニシアティブにおいて、回避可能な視覚障害の撲滅支援のために 2020 年までに 1 億米ドルを集めるという目標を打ち出しました。募金を集めるだけでなく、集まった額に対し当行が同額を加算することで倍額にし、Seeing is Believing への寄付を行っています。今回到達した目標額の半分、5,000 万米ドルも、2,500 万米ドルの募金に対し当行が同額 2,500 万ドルを加算した合計金額となっています。

スタンダードチャータードのグループ財務最高責任者兼 Seeing is Believing 議長であるリチャード・メディングスは次のように述べています。「2003 年に Seeing is Believing の取り組みを開始した当初は、2012 年半ばに 5,000 万米ドルを達成できるとは想像もしていませんでした。当行スタッフ、そして当行がビジネスを展開するコミュニティの方々からの素晴らしい支援の賜物です。

すべての募金額に当行が同額を加算した寄付金総額は、アイケアに手が届かなかった、または提供されていなかった地域において、2,800 万人以上の患者の治療に役立てられました。簡易な治療や比較的安価な手術によって、数百万人の大人や子どもの生活が大きく変わりました。私自身も直接その成果を目の当たりにしてきて、素晴らしいという言葉以外見つかりませんでした。当行は引き続き、残りの

5,000 万米ドルの募金活動に注力し、2020 年までに 1 億米ドルを集めるという目標達成に向け取り組んでいます。」

このたび Seeing is Believing への募金 5,000 万米ドルは、アジア・アフリカ・中東地域において、280 万件以上の視覚回復手術や、490 万件のアイケア検査の実施、さらには 16 万 8,000 個以上の眼鏡の配布にも充てられました。NGO が Seeing is Believing の一環として実施したこれらの活動により、中国・ガーナ・インドネシア・南アフリカ等の国々では、アイケアが公的医療制度の議題として取り上げられるようになりました。

Seeing is Believing への募金により、すでに 24 カ国でアイケアプロジェクトが展開されています。以下はその一例です。

- インド全土に 40 カ所以上の視覚障害支援施設を設立。農村部やスラム地域など、これまでアイケアを受けることができなかった地域の人々に対し、経済的に持続可能なモデルを提供。
- 白内障手術を待つ患者数を削減すべく、ナイジェリアで 200 人以上の中級程度の眼科スタッフのトレーニングを実施。カノ州、オヨ州、および周辺の州での白内障手術率が 50% 増加。過去 3 年強で、46,850 人が手術を受けた。
- パキスタンの学校で健康診断にアイケアを追加、視覚検査の標準アプローチも開発。

当プログラムに対する当行行員の参加は、これまでも、そして今後も Seeing is Believing にとって重要な要素となります。スタンダードチャータードの 87,000 人の行員の多くが、有給ボランティア休暇を活用してアイケア NGO の活動に参加し、各コミュニティでアイケアに関する問題意識の向上に努めています。

本件に関するお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行
コーポレート・アフェアーズ部
Tel: 03-5511-1245/ Fax: 03-5511-9311
CA.japan@sc.com

Seeing is Believing (視覚障害者支援プログラム)について

Seeing is Believingは、2003年に行員が中心となって回復可能な視覚障害の問題の意識を高め、募金を集めることを目的にグローバルな取り組みとしてスタートしました。それ以来、開発途上国のアイケアに4,500万米ドルを拠出し、2,800万人を越える人々を対象に活動しています。現在は、持続可能なアイケアプログラムを5000万人の人々に届けることを目的として、2020年までに1億米ドルの募金を達成することを目指しています。寄付金は視覚障害への治療、解決に向けた持続性のある活動 - 支援活動、啓蒙運動、眼鏡や手術など - をサポートする基金として使用されます。

日本においては、2004年からアキレスインターナショナルジャパン(視覚障害者を含めた障害をもつランナーと一般市民が共にランニングを楽しむためのグループ)とスポンサーシップ契約を締結しました。同団体をサポートするとともに、視覚障害についての意識を高めることを目的に、メンバーと学校訪問をするなど、ともにパートナーとして、地域への貢献活動やSeeing is Believingの募金活動を行っています。Seeing is Believingの詳細については、以下のサイトからご覧ください。

<http://www.standardchartered.co.jp/media-centre/seeing-isbelieving/jp/index.html>

スタンダードチャータード銀行-アジア・アフリカ・中東地域における先駆者として

スタンダードチャータードはロンドン証券取引所、ムンバイ証券取引所、ならびに香港証券取引所に上場している国際的な金融グループです。世界で最もダイナミックな市場-アジア・アフリカ・中東地域において150年以上の歴史を誇り、グループの収益の約9割は、それらの地域で創出されています。また、世界70カ国以上で1,700余のオフィスを有する当行は、国際的なキャリア構築の機会を総勢87,000余名の行員に対して生み出しています。当行グループでは、長期的視野に立った持続性のある事業構築に取り組む傍ら、高いレベルでのコーポレートガバナンスを保持すると共に、社会的責任を果たし、環境保護と多様性のある人材育成にも力を注ぐことで、世界中の信頼を得ています。私たちのブランドプロミスである「Here for good」は、このような当行の伝統と企業価値を反映しています。

日本・アジア地域におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての駐在員事務所を開設した1880年にさかのぼり、今年で132年目を迎えます。現在では、東京支店(千代田区・山王パークタワー)および丸の内支店(千代田区・岸本ビル)において約270名の従業員を擁しています。アジア・アフリカ・中東各地域で投資事業を展開する日本の企業法人・金融法人のお客様向けにホールセール、トレジャリー、トレードファイナンス等の金融サービスを提供するほか、2005年には個人のお客様向けに「プライオリティバンキング」部門を開設し、さらなる成長を続けています。

スタンダードチャータードのグローバルウェブサイト(英語): www.standardchartered.com

スタンダードチャータード銀行 在日支店ウェブサイト(日本語): www.standardchartered.co.jp

スタンダードチャータード銀行 在日支店ウェブサイト(英語): www.standardchartered.co.jp/index_english.html